

法人（事業所）理念	私たちは、【常に最新・最幸のサービスを創造、提供し続け、地域に根ざした企業活動を通じて、社会・経済に貢献する】企業を目指します。		
支援方針	機能訓練担当者配置されており、療育の中にリハビリテーションを取り入れています。利用児を個別に評価して、家族支援、移行支援、関係機関連携を行い個々に合わせた適切な支援を行っています。		
営業時間	9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容			
健康・生活	<健康状態の維持・改善>・健康状態の把握と対応、リハビリテーションの実施 <生活習慣や生活リズムの形成>・摂食訓練、衣服の調整、自助具の活用 <基本的な生活スキルの獲得>・日常生活動作訓練、構造化等による生活環境の調整・医療的ケア児への適切なケアの実施		
運動・感覚	<姿勢と運動の向上>・姿勢調整 筋力・バランスの維持を図る。途に合った体の使い方の向上を図る。 <身体能力の向上>・粗大運動、手先を使った活動を通して、用途に合った体の使い方の向上を図る。 <保有的感覚の活用>・色々な素材に触れ、受け入れられる感覚の幅を広げる。 <感覚の特性への対応>・感覚の状況に合わせた環境調整		
認知・行動	<認知の特性についての理解と対応>・認知の特性を理解して適切に処理できるように支援。<空間・時間・数等の概念形成の習得>・感覚の活用や認知機能の発達。認知の偏りの対応。<行動障害への予防及び対応>・応用行動分析を用い、行動の理解と変容を支援。りとなる概念の形成。数量、大小、色等の習得・知覚から行動への認知過程の発達。認知の偏りの対応。<行動障害への予防及び対応>・応用行動分析を用い、行動の理解と変容を支援。		
本人支援			
言語コミュニケーション	<コミュニケーションの基礎的能力の向上>・言語、非言語コミュニケーション能力をつける・構音訓練の実施<言語の受容と表出の支援>・言葉以外に文字や記号、絵、写真等を用いて理解と言語を容して表出する支援。<言語の形成と活用>・具体的な事物や体験と言葉を結びつけて自発的な発声と、体系的な言語を身につける。<人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得>・人との相互作用を通して共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援。<コミュニケーションの活用>・場や状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるように支援。		
人間関係社会性	<アタッチメント（愛着行動）の形成>・人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援。<模倣行動の支援>遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。<感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援>感覚機能を使った遊びや運動機能を使える遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。<一人遊びから協同遊びへの支援>周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。<自己の理解と行動コントロールのため支援>大人を介在して、自分ができること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや行動の調整ができるように支援する。<集団への参加への支援>集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援。SSI実施。		
家族支援	<アタッチメント（愛着）の形成>・子どもとの信頼関係を育み、家族や周囲との安定した関係性を形成。<家族からの相談に関する適切な助言>・子育て困りごとの相談援助・子どもとの関わり方の助言、提案。・保護者同士の交流機会の提供。（子育てカフェの開催）<障害の特性に配慮した家庭環境の整備>・子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助。・家族に対する支援場面を通じた学びの機会の提供。ペアレントトレーニングの実施。	移行支援	<園・学校への移行支援、ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備> ・具体的な移行や将来的な移行を見据えた子どもの発達の評価と支援。 ・移行先との支援方針、支援内容の共有や、子どもたちの状態と親の意向、支援方法についての伝達。・家族への情報提供。・移行先の選択についての本人や家族への相談援助。
地域支援・地域連携	<通所する子どもにかかわる地域の関係者・関係機関と連携した支援>・子どもが通う園、通う予定の学校、字量との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助、個別支援計画書の作成又は見直しに関する会議の開催。・子どもが利用できる障害児相談支援事業所や障害福祉サービス事業所における連携。 ・季節ごとに壁面の制作。・会社全体で地域に向けてフェス開催 ・子育てカフェ開催		
主な行事等	職員の質の向上 提供する障害児通所支援の質の評価を行うことと、質の向上に努める。適切な支援を安定的に提供するとともに、支援に関わる人材の知識と技術を高めるために、様々な研修の機会を確保する。日常的に職員同士が主体的に取り入れる。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	中核支援センターありんこキッズnest(児童発達支援センター)		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 3日		～ R8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	R8年 3月 31日		～ R8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	機能訓練のスタッフが配置されており、専門的な支援や相談支援を実施している。	多職種の職員が日頃から連携や情報共有のコミュニケーションがとりやすい雰囲気である。 研修の機会を作り、支援の質を高められるようにしている。	より多くの職員が参加しやすいようにオンライン研修を取り入れ、支援の質を高めていく。
2	広いスペースがあり、トランポリン、サーキット、ドッチボール、サッカー、野球、鬼ごっこ等、体を十分に動かすことができ、友だちとの関わって支援している。	安全面に配慮している。 同じ空間になった子ども同士で小集団活動ができるような環境があったり、運動が苦手な子どもも経験しやすいようにしている。	活動前に子ども達取り組みたい運動面や友だちとの関わりがもてる内容を相談し、安全で快適に活動できるようにする。
3	子育てカフェやペアレントトレーニングを実施し、保護者同士の交流や家族支援を行っていく。	開催の案内をお便りやメールでお知らせしている。保護者に個別での声かけもしている。	開催後もお便り等でよかった様子を伝え、次回の参加につながるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開所して1年経つが、まだ市民への認知が低い。	市民に発信する場があまりない。	講演会や相談会等を開催し、事業所を知ってもらえるとよい。
2	ペアレントトレーニングの開催に人が集まりにくい。	児童発達支援に通所する児童が少ないため、開催がしづらい。	講演会や相談会等を開催し、事業所を知ってもらえるとよい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	中核支援センターありんこキッズnest (児童発達支援センター)
------	----------------------------------

公表日 R8年 4月 1日

利用児童数 12

回収数 7

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7				開放的な広々としたスペースだと思います。		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5	1		1			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7				子供たちが安全にのびのびと過ごせる環境が整っていると感じます。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7				同上		
適切 な支 援の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7				とても親身になって親の話を聞き、しっかり子供のことを見てくださっています。		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7				同上		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7				同上		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7				具体的にわかっているわけではないのですが、いつも丁寧に説明して下さり不安はないです。		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7				それぞれに合った支援がなされていると思います。		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4				3	色々なものに挑戦させて頂いているようでわが子はとても楽しそうです。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	2			2		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					とても丁寧に对应してくださいました。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					同上	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4					3	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7						ノートで今日はどんなことをしたか毎回しっかりと書いて下さり、安心していきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7						面談に行けていませんが、定期的に面談を設けて下さっています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7						思います。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4					3	参加がまだ出来ていませんが、そういったイベントもあると知って、とても良いなあと感じております。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6					1	正直、私は全く知らず園を通してしまいましたが、こちらの申し入れをととても親切に迅速に対応してくださいました。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6			1	ノートやお便りを通して伝えて下さっています。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	1		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6			1	わかりませんが、そうだと思います。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1		1	詳しくはわかりませんが、そういった事もしているとお知らせしております。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1		1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6				1	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5				1	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6			1	毎週とても楽しみに通っています。先生やお友達の話を楽しんでいます。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7				安心して過ごしているのだと感じます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				とにかく子供が楽しく通っているので、私も満足しております。	

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	中核支援センターありんこキッズnest (児童発達支援センター)	公表日	R8年 4月 1日
------	----------------------------------	-----	-----------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		適切に配置されている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	1	バリアフリー化している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児用トイレが設置されていない。 ・ 安全面確保のための備品が不十分。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1	2	必要な作業や関わりに応じて対応できる部屋の環境が提供できている。	コンクリートの床面があり、安全への整備が必要。窓が多く、太陽の光がまぶしい。教材や遊具を収納する空間があるといい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		個別の部屋が3つあり、活動内容に応じて部屋を使用している。	
業務 改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	会社の担当者との面談で改善の要望を伝えている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		オンライン研修、各種マニュアル研修を行ったり、伝達研修で職員に周知している。	
適切 な支 援の 提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		必要に応じて発達検査を実施している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		機能訓練の職員が言語面や運動、感覚面の検査等を行い、子供の状況を把握している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		職員間で相談しやすい職場環境である。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		子供の状態に応じて課題を変えたり、柔軟に対応している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3		個別指導、集団指導と適宜組み合わせで支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		朝礼、昼礼で確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		児童の様子や支援について、職員間で報告、相談しやすい環境である。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		協力医療機関のドクターが月1回来所し、情報共有している。必要に応じて、連携をとっている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	3		年5回地域の事業所と会議を行い、情報共有や研修を行っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			保護者や事業所から要望があれば提供をする。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			患那市自立支援協議会の子ども部会に出席し、意見交換をしている。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		3		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		子育てカフェを実施し、保護者同士の交流を年3回実施。ペアレントトレーニングも計画はしている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		面談は毎月紙面で呼びかけ実施し、必要な対応を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	2	子育てカフェを開催し、保護者同士で子育ての悩みなど話せる場を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		定期的にお便りを発行したり、メールで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報は施錠のできるロッカーで保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		文字にルビを振るなどしたり、イラスト等を必要に応じて使用している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3		年1回フェスティバルを行い、利用児童だけでなく地域住民が幅広く参加できるような企画をしている。近隣の老人施設の方を行事に招待し、交流を行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		月1回マニュアル研修の実施、火災、地震の訓練を児童と一緒にし、お便りで保護者に周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		・保護者と状態について共有し、対応の方法や連絡先を職員皆に周知している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		エビベン講習を受けたり、アレルギーの児童への対応を職員に周知している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		ヒヤリハットがあった場合は起きた状況を分析し、改善点なども検討し、職員間で周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		毎月のチェックリストを実施したり、研修を受けて防止に努めている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		個別支援計画に記載し、危険が伴う場合の身体拘束について、保護者に説明し了解を得ている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3				

法人（事業所）理念	私たちは、【常に最新・最幸のサービスを創造、提供し続け、地域に根ざした企業活動を通じて、社会・経済に貢献する】企業を目指します。		
支援方針	機能訓練担当者が配置されており、療育の中にリハビリテーションを取り入れています。利用児を個別に評価して、家族支援、移行支援、関係機関連携を行い個々に合わせた適切な支援を行っています。		
営業時間	10 時 0分から 18 時 0分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容			
健康・生活	<p><健康状態の維持・改善>・健康状態の把握と対応、リハビリテーションの実施</p> <p><生活習慣や生活リズムの形成>・摂食訓練・衣服の調整・自用具の活用</p> <p><基本的な生活スキル獲得>・日常生活動作訓練・構造化等による生活環境の調整・医療的ケア児への適切なケアの実施</p>		
運動・感覚	<p><姿勢と運動の向上>・姿勢調整、筋力・バランスの維持を図る。</p> <p><身体能力の向上>・粗大運動、手先を使った活動を通して、用途に合った体の使い方の向上を図る。</p> <p><保有的な感覚の活用>・色々な素材に触れ、受け入れられる感覚の幅を広げる。</p> <p><感覚の特性への対応>・感覚の状況に合わせた環境調整</p>		
認知・行動	<p><認知の特性についての理解と対応>・認知の特性を理解して適切に処理できるように支援。<空間・時間・数等の概念形成の習得>・感覚の活用や認知機能の発達。認知や行動の手がかりとなる概念の形成。数量、大小、色等の習得・知覚から行動への認知過程の発達。認知の偏りの対応。<行動障害への予防及び対応>・応用行動分析を用い、行動の理解と変容を支援。</p>		
本人支援			
言語コミュニケーション	<p><コミュニケーションの基礎的能力の向上>・言語、非言語コミュニケーション能力をつける。構音訓練の実施<言語の受容と発音の支援>・言葉以外に文字や記号、絵、写真等を用いて理解と言語を受容して表出する支援。<言語の形成と活用>・具体的な事物や体験と言葉を結びつけて自発的な発音と、体系的な言語を身につける。<人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得>・人との相互作用を通して共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援。<コミュニケーション機器の活用>状況に応じたコミュニケーションの活用<状況に応じたコミュニケーション>・場や状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるように支援。</p>		
人間関係社会性	<p><アタッチメント（愛着行動）の形成>・人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援。<模倣行動の支援>遊び等を通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。<感覚運動遊びから象徴遊びへの支援>感覚機能を使った遊びや運動機能を動かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。<一人遊びから協同遊びへの支援>周囲に子どもがかいても無関心である一人遊びの状況から並行遊びを行い、大人が介入して行う運命的な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。<自己の理解と行動コントロールのため支援>大人を介在して自分ができること、できないことなど、自分が行った行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。<集団への参加への支援>集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援。SST実施。</p>		
家族支援	<p><アタッチメント（愛着）の形成>・子どもとの信頼関係を育み、家族や周囲との安定した関係を形成。<家族からの相談に関する適切な助言>・子育て困りごとの相談援助・子どもとの関わり方の助言・提案。・保護者同士の交流機会の提供。<子育てカフェの開催>・障書の作成又は見直しに関する会議の開催。・子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助。・家族に対する支援場面を通じた学びの機会の提供。ペアレントトレーニングの実施。</p>		
地域支援・地域連携	<p><通所する子どもにかかわる地域の関係者・関係機関と連携した支援>・子どもが通う園、通う予定の学校、字輩との情報連携や調整・支援方法や環境調整等に関する相談援助、個別支援計画書の作成又は見直しに関する会議の開催。・子どもが利用できる障害児相談支援事業所や障害福祉サービス事業所における連携。</p>		
主な行事等	<p>・会社全体で地域に向けてフェス開催 ・子育てカフェ開催</p>		
職員の質の向上	<p><学校への移行支援、ライオスターの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備></p> <p>・具体的な移行や将来的な移行を見据えた子どもの発達の評価と支援。</p> <p>・移行先との支援方針、支援内容の共有や、子どもの状態と親の意向、支援方法についての伝達。・家族への情報提供。・移行先の選択についての本人や家族への相談援助。</p> <p>提供する障害児通所支援の質の評価を行うことと、質の向上に努める。適切な支援を安定的に提供することともに、支援に関わる人材の知識と技術を高めるために、様々な研修の機会を確保する。日常的に職員同士が主体的に学び合えるように、職場内研修や外部研修、オンライン研修を積極的に取り入れる。</p>		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	中核支援センターありんこキッズnest(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 3日		～ R8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	R8年 3月 31日		～ R8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は運動活動を行うのに十分な広さがある。サッカーやドッジボール、バドミントンなどが行えている。天候に関係なく体を動かすことができる。	活動が同時になる子ども同士で小集団活動を行っている。子ども同士で活動の相談ができるような場面設定を意識して作っている。	お子さんの状態に合わせて適宜個室も使えるように、支援者で打ち合わせを行うことで、さらに安全な空間になるようにする。
2	理学療法士等のリハビリスタッフを配置している。各専門職がアセスメントを行い、的確に支援を行っている。	リハビリスタッフと他の支援者で子どもの様子の情報共有のコミュニケーションが取りやすい環境作りをしている。研修機会を設けて支援の質の向上を図っている。	伝達講習に加えてより多くのスタッフが参加できるオンライン研修を活用して、参加を促す。
3	子育てカフェを実施して子育ての話を中心に様々な話ができる場を提供して家族支援を行っている。	コミュニケーションアプリ「LINE」を活用して全保護者に案内をしている。	できるだけ多くの保護者に参加していただけるように口頭での呼びかけをしたり、開催日を考慮する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた事業運営の取り組み	新規開設の事業所のため認知度が低いと考えられるが、事業所からの働きかけが弱い。	近隣の福祉事業所や地域住民との交流活動が円滑にできるようになるために、お便り等で事業所の活動の情報を積極的に発信していく。
2	家族等の参加ができる研修の機会	子育てカフェで保護者同士の交流する機会を設けているが、家族の対応力の向上のための、家族が参加できる研修機会が十分でない。	ペアレント・トレーニングの開催を計画する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	中核支援センターありんこキッズnest(放課後等デイサービス)
------	---------------------------------

公表日 R8年 4月 1日

利用児童数 60

回収数 35

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	35					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	30	2		3		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	35					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35					
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	35					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	31	2		2		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	35					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34	1				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29	3		3		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	7	5	12		
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	35					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	35					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	26	2	1	6		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	34			1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	35					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19	7		9		
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31			4			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	31	2		2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	32	1	1	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	4	1	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	34	1		1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	1	1	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30			5		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	34			1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	35				とても楽しみにしていて、朝から「今日はありんこの日だね」と言っています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	35					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		中核支援センターありんこキッズnest(放課後等デイサービス)				公表日	R8年 4月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切に配置されている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4		・トイレの表示がわかりづらい ・安全面確保のための備品が不十分。 ・幼児用のトイレが泣い。床が冷たい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	4	・必要な作業や関わりに応じて対応できる部屋の環境が提供できている。	・コンクリートの床面があり、安全への整備が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		活動内容に応じた部屋が使えるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		オンライン研修、各種マニュアル研修を行ったり、伝達研修で職員に周知している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		必要に応じて発達検査を実施している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		言語発達検査を行い、確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		子供の状態に応じて課題を変えたり、柔軟に対応している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別指導、集団指導と適宜組み合わせ支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼、昼礼で確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	・児童の様子や支援について、職員間で報告、相談しやすい環境である。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・個別での関わりの中で、児童の意思を尊重しながら関わっている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		協力医療機関のドクターが付き1回来所し、情報共有している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	保護者や事業所から要望があれば提供をする。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	地域の児童発達支援センターと連携はとっている。	困難事例に対して、スーパーバイズを受ける機会を検討していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	・施設外療育で地域の児童センターを利用し、地域の児童とふれあう機会をもっている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	今年度より自立支援協議会に参加できた。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	子育てカフェを実施し、保護者同士の交流を年3回実施。ペアレントトレーニングも計画はしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		面談は毎月紙面で呼びかけ実施し、必要な対応を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	子育てカフェを開催し、保護者同士で子育ての悩みなど話せる場を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		定期的にお便りを発行したり、メールで発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報は施錠のできるロッカーで保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		文字にルビを振るなどしたり、イラスト等を必要に応じて使用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		年1回フェスティバルを行い、利用児童だけでなく地域住民が幅広く参加できるような企画をしている。近隣の老人施設の方を行事に招待し、交流を行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		月1回のマニュアル研修の実施、火災、地震の訓練を児童と一緒にし、お便りで保護者に周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		・保護者と状態について共有し、対応の方法や連絡先を職員皆に周知している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		エビベン講習を受けたり、アレルギーの児童への対応を職員に着脱している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットがあった場合は起きた状況を分析し、改善点なども検討し、職員間で周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎月のチェックリストを実施したり、研修を受けて防止に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		個別支援計画に記載し、危険が伴う場合の身体拘束について、保護者に説明し了解を得ている。		